

日 時：平成26年7月2日（水） 14：40～15：40

場 所：船引高等学校 校長室

出席者：富塚宥暎委員、根本傳作委員、助川弘道委員、太田正一委員、佐々木義高委員、
牧公介委員、大橋誠委員代理 相馬栄一様、渡辺兵吾委員代理 影山晃人様
相良校長、櫻井教頭、坪井教諭、大橋教諭、伊藤教諭、原教諭、滝口

記録者：滝口

1. 開会の言葉（櫻井教頭）

2. 会長あいさつ（富塚委員）

大変お忙しい中、田村市版デュアルシステム運営協議会に参加していただきありがとうございます。このデュアルシステムも田村市の合併とともに船引高校の改革が始まった平成17年から模索し、平成21年から実施してきた。市内の企業様の協力があって、生徒がどの仕事が適しているのかを確認することができていると思う。また、皆様からは船引高校の生徒が良くなってきているという意見も聞いている。これもひとえに校長はじめ先生方のこれまでの教育のたまものであると思う。今日は忌憚のない意見をいただければと思う。

3. 校長あいさつ（相良校長）

お忙しい中参加していただきありがとうございます。今週のデュアル実習で今年度8回目を迎えた。実習を巡回している教員による報告書を読んでいる。その中で職員の方にもお褒めのお言葉をいただいているのを目にすることがある。子どもに丁寧な指導をしていただいている様子が目に浮かぶ。実習を通して生徒本人の自信、人との関わりかたや仕事をする上で必要な目線を養うのに役立っている。また、生徒自身の自己肯定感の向上に役立っている。企業の皆様には、そのような場を提供していただいていることに感謝している。今年度は山形県の遊佐高校、岐阜県の八百津高校、揖斐高校の3校から田村市版デュアルシステムを参考にしていきたいとの意見をもらい、視察の申し込み等が来ている。デュアル実習の効果が全国に広まっている。様々な意見を忌憚のない意見をいただいきたいと感じている。

4. 参加者あいさつ

5. 報告

（1）田村市版デュアルシステムの概要について（櫻井教頭） **※ 資料 p.1 を参照**

今年度は2年生16名、3年生15名が参加し、合計21社の企業様に協力いただいている。今年度の成果発表会は来年の2月24日に田村市文化センターで行う。

6. 協議

（1）平成26年度の実施状況について（大橋教諭） **※ 資料 p.4～を参照**

官公庁、幼児教育等のような、アルバイトでは経験できないことを経験させていただいている。今年度の2年生はアルバイトも経験したことのないような生徒が多いため、企業の皆様には多くの指導をいただいたと感謝している。生徒が毎週成長しているのを感じている。3年生は昨年1年間で大きく成長できた。それを生徒も実感していると思う。成果発表会に参加していただければと思う。

○1年生への希望調査の報告（大橋教諭） **※ 資料 p.10 を参照**

123名中81名が希望している。前回の説明では選択した際のメリットを中心に話したからであると思われる。金曜日に保護者を交えた説明会がある。部活動への参加に遅れる、資格取得に向けた勉強ができないなどのデメリットも説明していく。

意見（佐々木委員）

希望する全ての生徒が参加できるのか。

回答（大橋教諭）

最終的な希望人数は減る。最大の受け入れ幅は35～40名。ただし、そうなると生徒が企業を選択できなくなるおそれがある。1学年20名前後が適正人数か。

意見（富塚委員）

生徒はどのようにして通勤しているのか。バイク通勤を認めているのか。

回答（大橋教諭）

資料のp.4にあるが、多くの企業は学校の近隣であるため通学と同じように通勤できる。学校から離れた場所を選ぶ生徒はその近隣に住んでいる生徒である。部活動に参加するために学校に戻ってくる生徒も少なくない。バイクの許可はしていない。多くの生徒は保護者の送迎となっている。

意見（富塚委員）

企業の場所が異なるが、バスで周回して生徒の送迎ができないかと思う。ただし、経費の問題などは発生する。時間帯などの問題が難しいが、田村市のデマンドタクシーが利用できないかと思う。

（2）平成26年度の予定について（櫻井教頭）

先の通り、来年の2月24日に田村市文化センターで成果発表会を行う予定でいる。

（3）その他

○H23年度卒の追跡調査（櫻井教頭）

意見（佐々木委員）

プリント内の“進路先”と“現在”の違いはなにか。

回答（櫻井教頭）

“進路先”は卒業後の進路。“現在”は現在の就職・就学先。ほとんどの生徒がデュアルで経験したことをばねに頑張っている。

意見（富塚委員）

現在は全国で何校ぐらいデュアル実習を行っているのか。

回答（大橋教諭）

インターネットで調べた上では、工業高校では多くの学校が行っている（10校以上）。普通科の高校で実施している学校は全国でも稀であるようだ。

意見（太田委員）

学校から企業に対しての要望があれば聞かせていただきたい。

回答（伊藤教諭）

生徒との面談をしていく中で、同じ作業でもいろいろな課題が出てくる。生徒にとっては学ぶことが多い。多くのことを経験させていただきたい。

回答（原教諭）

2年生は働くことに関しては初めての生徒が多い。生徒に対して、実習の中で何のためにこの仕事があるかなどの課題を与えていただいている。その後の面談でこちらからも課題を与え、次週の実習に生かしている。企業様からもヒントやアドバイスをもらっている。生徒が毎週成長できている。

回答（大橋教諭）

建築土木を希望する生徒が多いが、天候や仕事量に左右されるため、受け入れてもらえる企業がない。建築土木系の受け入れをしてほしい。もう少し希望者が増えると思われる。

7. 閉会の言葉（櫻井教頭）